

「平成25年度普及に移す成果」

水稻極早生品種「一番星」の育成と 認定品種採用（品種登録出願公表中）



農業総合センター生物工学研究所
農業研究所

「あきたこまち」より早期に収穫可能で、品質の優れた極早生品種「一番星」を育成し、認定品種として採用しました。「一番星」を導入することにより、早場米地帯における早期出荷と大粒で良質米の安定生産が可能になります。

品種の特性

★「一番星」は、同熟期の「あきたこまち」と比較して以下の特徴があります。

- 1 出穂期は同じで成熟期は2日程度早い。
- 2 稈長は短く倒れにくい。穂ぞろいが良く作りやすい（表、写真1）。
- 3 収量は同等。
- 4 玄米千粒重は1.5g程度重い。粒揃いが良く白未熟粒の発生が少ない（写真2）。「あきたこまち」の検査等級が低下した高温年でも検査等級は1等で、上位等級を安定して確保できる（データ省略）。
- 5 炊飯米は粘りがあり柔らかく、「あきたこまち」と同じくおいしい（データ省略）。
- 6 いもち病抵抗性は同程度。穂発芽しにくく、冷害や高温にも強い（データ省略）。



「あきたこまち」 「一番星」
写真1 草姿



「あきたこまち」 「一番星」
写真2 玄米の外観（各40粒）

県内での適応性

★極早生品種として早場米地帯に適応可能であり、早期出荷と大粒で良質米の生産が可能になります（表）。

表 早場米地帯における「一番星」の生育・収量・品質（平成24年）

品種名	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	収量 (kg/10a)	玄米 千粒重(g)	整粒歩合 (%)*
一番星	7/15	8/16	66	530	22.6	85
あきたこまち	7/15	8/18	72	534	21.0	75

潮来2か所・稲敷市2か所・鹿嶋市1か所の平均値。整粒歩合：S社穀粒判別器による測定値

栽培上の留意点

- ・極早生のためカメムシ類が集中しやすいので必ず適期防除を行って下さい。
- ・短稈で食味・品質が良好な品種ですが、施肥法は「あきたこまち」に準じて、中干し・適期落水など高品質米生産に努めて下さい。

<問い合わせ先；生物工学研究所普通作育種研究室 Tel 029(239)7212
農業研究所水田利用研究室 Tel 0297(62)0206>